令和４年度　佐那河内果樹アグリスクール

すだちの摘果・摘葉（実習）

果樹栽培暦のポイントについて（座学）

みかんの剪定（実習）

接ぎ木について（実習）

実施期間　令和4年6月28日（火）～令和5年3月22日（水）
講義回数　10回
受講生　　11名
修了者　　 8名（8割以上出席者）

佐那河内果樹アグリスクール実施計画書

１．目的

本会は佐那河内果樹アグリスクールと称し,果樹生産者に対し,栽培技術の向上や栽培技術の継承を目的とする。

２．概要

受講生を募集し,1年を通して果樹の栽培技術講習会を行う。講師は村内外から選任し,座学及び現地研修で栽培技術の習得を目指す。

３．受講要件

（１）村内に在住もしくは村内に耕作園地のある者。
（２）村内で就農を目指す者。
（３）佐那河内村に関わりの無い者(村外在住・園地無し・村内での就農予定無し)については,資料代等として5,000円を負担できる者。
（４）（１）（３）の場合は,世帯内で果樹の出荷実績のある者。

４．講習概要

みかん・すだち・キウイを中心に果樹における栽培技術講習会を開催する。講習会は1ヶ月1回程度,年間10回程度とする。(初年度は5回程度)

年間カリキュラムについては,農業振興協議会・農業指導班会などに意見を聞きながら作成する。

受講生は公募とし,定員は約20名とする。1回1単位の単位制とし,8割(小数点以下切り捨て)以上取得した受講生には修了証書を交付する。また,修了後の再受講は妨げない。

５．実施主体及び体制

実施主体は佐那河内村とし,校長に村長,産業環境課に事務局を置く。

６．講師

講師は佐那河内村内外の農家及び有識者を校長が選任する。

７．講師謝金

村内講師の謝金は1回(午前もしくは午後を1回とする。)あたり5千円とする。
村外講師については,講師との協議により決定する。

計画実施　　平成29年 8月31日
平成30年 4月18日　変更
受講要件　村内で就農を目指す者。を追加
平成30年 6月 5日　変更
受講要件　佐那河内村に関わりの無い者(村外在住・園地無し・村内での就農予定無し)については,資料代等として5,000円を負担できる者。を追加
令和2年　7月20日　変更
受講要件　（１）（３）の場合は,世帯内で果樹の出荷実績のある者。を追加

令和４年度　佐那河内果樹アグリスクール日程表

回数	開催日 場　所	主な内容			
		午前（10:00～12:00）	講師	午後（13:00～15:00）	講師
第１回	6月28日(火) 大会議室	開校式(9:00～)		防除について(座学)	支援Ｃ 亀代
		果樹の総論と経営について(座学)	支援Ｃ 井川		
第２回	7月11日(月) 村内園地 大会議室	すだちの摘果・摘葉(実習)	大仲	施肥と潅水について(座学)	技術 支援Ｃ 新居
第３回	9月13日(火) 大会議室 村内園地	すだちの栽培について(座学)	技術 支援Ｃ 安宅	すだちの収穫(実習)	大仲
第４回	9月21日(水) 大会議室	果樹栽培暦のポイントについて(座学)	ＪＡ 長谷部	ゆずの栽培について(座学)	ＪＡ 山本
第５回	10月18日(火) 大会議室 村内	流通と市場について(座学)	全農 二木	鳥獣害の対策について (座学及び現地研修)	役場 上野
第６回	11月2日(水) 大会議室 村内園地	キウイの栽培について(座学)	支援Ｃ 岡島	キウイの収穫・貯蔵(実習)	市原
第７回	1月12日(木) 大会議室	みかんの栽培について(座学)	西岡	キウイの剪定(実習) 【1/19・1/24に延期】	
第７回 延期分	1月19日(木) 村内園地	キウイの剪定(実習)	市原		
第７回 延期分	1月24日(火) 村内園地	キウイの剪定(実習)	市原		
第８回	2月16日(木) 村内園地	土づくりについて(実習)	支援Ｃ 木村	すだちの剪定(実習) 13:00～15:30	ＪＡ 長谷部
第９回	3月1日(水) かんきつテラス徳島	みかんの剪定(実習)13:00～16:00 徳島県カンキツアカデミーと合同			農大 安宅
第10回	3月22日(水) 村内園地	常緑果樹の苗木植え付け (園地での講義)	技術 支援Ｃ 板東	接ぎ木について(実習)	西岡
				修了式(15:00～)	

令和４年度　佐那河内果樹アグリスクール講師名簿(敬称略)

No.	所　　属	講師氏名	内容
1	農林水産総合技術支援センター 農業大学校(勝浦)	安宅　雅和	みかんの剪定
2	農林水産総合技術支援センター 高度技術支援課	板東　康成	常緑果樹の苗木植え付け
3	農林水産総合技術支援センター 農産園芸研究課	安宅　秀樹	すだちの栽培について
4	農林水産総合技術支援センター 資源環境研究課	新居　美香	施肥と潅水について
5	東部農林水産局＜徳島＞農業支援第一 担当（徳島農業支援センター）	井川　秀雄	果樹の総論と経営について
6	東部農林水産局＜徳島＞農業支援第一 担当（徳島農業支援センター）	亀代　美香	防除について
7	東部農林水産局＜徳島＞徳島ブランド 推進担当（徳島農業支援センター）	岡島さつき	キウイの栽培について
8	東部農林水産局＜徳島＞農業支援第一 担当（徳島農業支援センター）	木村　拓登	土づくりについて
9	全農とくしま 園芸部	二木　伸一	流通と市場について
10	徳島市農協 南部営農経済センター	長谷部　秀明	果樹栽培暦のポイントについて すだちの剪定
11	徳島市農協 南部営農経済センター	山本　浩史	ゆずの栽培について
12	農　　家	市原　善文	キウイの収穫・貯蔵 キウイの剪定
13	農　　家	大仲　　保	すだちの摘果・摘葉 すだちの収穫
14	農　　家	西岡　　優	みかんの栽培について 接ぎ木について
15	佐那河内村役場 企画政策課	上野　浩嗣	鳥獣害の対策について

令和4年度　佐那河内果樹アグリスクール参加者名簿

番号	氏名	住所	募集対象	年齢
1	A	徳島市上八万町	担い手	62
2	B	佐那河内村	Iターン	34
3	C	徳島市新浜本町	担い手	64
4	D	徳島市国府町	担い手	72
5	E	佐那河内村	担い手	71
6	F	鳴門市	新規就農者	63
7	G	小松島市	担い手	54
8	H	佐那河内村	新規就農者	61
9	I	徳島市名東町	新規就農者	70
10	J	佐那河内村	担い手	68
11	K	阿南市	新規就農者	63

令和４年度　佐那河内果樹アグリスクール　実績

佐那河内村では,平成29年度より果樹の栽培技術の向上と継承を目的に,『佐那河内果樹アグリスクール』を開校しています。令和4年度も,新型コロナウイルス感染拡大防止のため,募集人員を減らしての実施となりましたが,3年ぶりに通常どおりの開校となりました。今年度は11名の参加があり,8名が修了しました。

●令和4年度　佐那河内果樹アグリスクール開校式
日時：令和4年6月28日(火)　9:00～
場所：佐那河内村役場　大会議室

●第１回講義【午前の部】「果樹の総論と経営について」（座学）
日時：令和4年6月28日(火)10:00～12:00
場所：佐那河内村役場　大会議室
講師：徳島農業支援センター 徳島支援第一担当 井川 秀雄さん
参加人数：10名

内容：果樹の品目別ランキングや新品種のお話のあと,果樹の分類や気象との関係による適地適作のお話がありました。花芽分化とCN率では,窒素(肥料)と炭水化物(光合成)との関係を詳しく聞くことができました。省力樹形による作業の効率化や改植や接ぎ木による老木の更新,高糖系みかんの隔年交互結実栽培など栽培に係るお話や流通や輸出等の販売に係るお話など幅広い分野でのお話を聞くことができました。すだちやみかん,ゆず・キウイの具体的な作業スケジュールと合わせ,佐那河内村では果樹で就農できる良い環境が整っていることのお話をいただきました。

●第１回講義【午後の部】「防除について」（座学）
日時：令和4年6月28日(火)13:00～15:00
場所：佐那河内村役場　大会議室
講師：徳島農業支援センター 徳島支援第一担当 亀代 美香さん
参加人数：9名
内容：柑橘類の病害として,①糸状菌(カビ)②細菌(バクテリア)③ウイルスの3種類あり,それぞれの具体的な病気の原因と症状,防除時期等について詳しくお話がありました。また,害虫ではゴマダラカミキリやカメムシ,ダニ類などが木や葉,実に与える影響と防除の時期や抵抗性がつかないような防除方法のお話がありました。農薬と使い方では,適用作物以外には使用しないことや使用料(希釈倍率),決められた使用時期の厳守など,農薬取締法で定められている基準を順守することが大切であり,残留農薬が基準値以上検出されると出荷停止になることのお話がありました。徳島県の病害虫防除所では,病害虫の発生予察警報などの情報をメールマガジンで配信しており,病害虫の早期対策に役立ててほしいとのことでした。

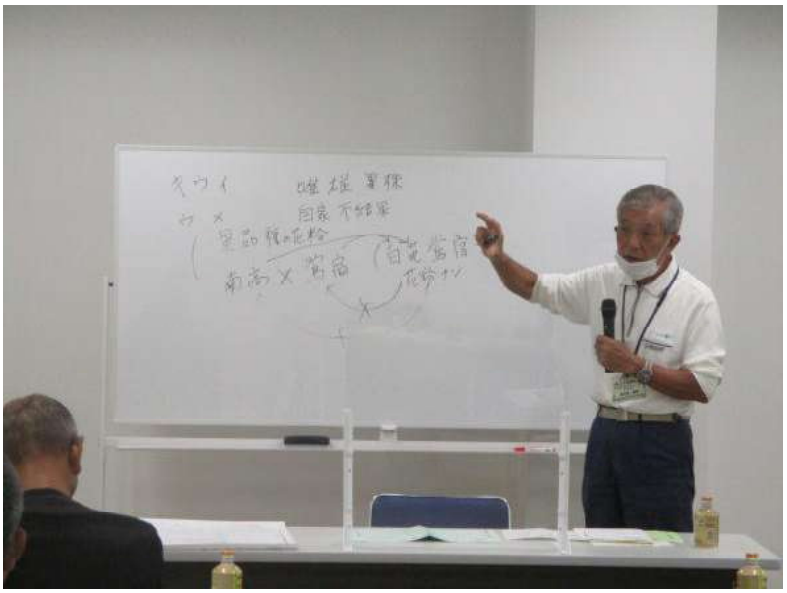
●第2回講義【午前の部】「すだちの摘果・摘葉」（実習）
日時：令和4年7月11日(月)10：00～12：00
場所：大仲さん園地
講師：大仲　保さん
参加人数：9名
徳島農業支援センターから3名参加。
内容：講師の大仲さんより,実の周りの旧葉を取り除き,実に光が当たるようにすること,木全体の2割程度を摘果すること,今後の実太りを考慮して摘果することなどの説明がありました。大仲さんより摘果・摘葉作業を見せてもらった後,1本の木を3～4名でそれぞれ摘果・摘葉作業を行いました。

●第2回講義【午後の部】「施肥と潅水について」（座学）
日時：令和4年7月11日(月)13：00～15：00
場所：佐那河内村役場大会議室
講師：徳島県立農林水産総合技術支援センター　資源環境研究課　新居美香さん
参加人数：10名
徳島農業支援センターから3名参加。
内容：土づくりでは,団粒構造にすることで,保水性・通気性が良く,根の張りが良くなること,植物に適したphは5.5～6.5であるため,毎年土壌診断を行い,適正なphを維持することなどのお話がありました。肥料は,作物の生育に必要な因子のうち,一つでも不足すれば他の因子を増しても生育は増大しないこと(最小養分律),作物の収量には限界点があり,限界点に近づくにつれて,肥料の施用効果が低下すること(収量漸減の法則)などのお話がありました。また,有機物のC/N比により,15以下であれば肥料効果があり,15を超える場合は土づくりに効果があるとのことでした。潅水では,みかんの糖度を上昇させるために,梅雨明けから盆過ぎと9月中旬から収穫期に乾燥ストレスをかけ,8月下旬から9月中旬は一旦水を戻して果実肥大と減酸を進める必要があるとのことでした。

●第3回講義【午前の部】「すだちの栽培について」（座学）
日時：令和4年9月13日（火）10：00～12：00
場所：佐那河内村役場　大会議室
講師：徳島県立農林水産総合技術センター　農産園芸研究課　安宅秀樹さん
参加人数：9名
徳島農業支援センターから2名参加。
内容：すだちの栽培特性として，「果実肥大途中の未熟果を収穫する」，「かいよう病に弱い」，「果実への食害が多い」などの特性があり，「年平均気温14℃以上あること」，「冬期最低気温がマイナス5℃以下にならないこと」，「日照量が多く，耕土が深く，腐食に富み，排水良好であること」などが栽培適地の条件とのことでした。肥培管理では，枝や花の成長促進のための春肥，果実肥大のための夏肥2回，落葉防止や樹勢回復のための秋肥（お礼肥）の年4回の施肥が必要であり，全生育期間を通して，肥料が効いている状況が良いとのことでした。貯蔵や１年間の管理の話もあり，すだちの栽培について，詳しくお話を聞くことができました。最後に，貯蔵に適した晩成品種として，昨年品種登録申請をした「勝浦一号」の紹介がありました。

●第3回講義【午後の部】「すだちの収穫」（実習）
日時：令和4年9月13日(火)13：00～15：00
場所：柏木さん園地
講師：大仲　保さん
参加人数：8名
四国大学短期大学部人間健康化食物栄養専攻　学生5名　教員2名
徳島農業支援センターから5名参加。
内容：柏木さんの園地をお借りし,すだちの収穫の実習を行いました。また,四国大学との連携事業として,四国大学短期大学部の学生や先生も参加しました。講師の大仲さんから,収穫の方法を聞いた後,2人1組になって収穫を行いました。暑さとトゲに苦戦しながらも,コンテナ18箱(約360Kg)を収穫しました。参加いただきました皆様,暑い中お疲れさまでした！

●第4回講義【午前の部】「果樹栽培歴のポイントについて」（座学）
日時：令和4年9月21日(水)10：00～12：00
場所：佐那河内村役場　大会議室
講師：徳島市農業協同組合 南部営農経済センター 長谷部 秀明さん
参加人数：7名
徳島農業支援センターから3名参加。
内容：まずは,果樹の生育ステージとして,温州みかん・すだち・ゆず・キウイ・うめについて,年間の生育状況や作業の説明がありました。その後,それぞれの果樹について,栽培歴を活用しながら防除や施肥についての詳しいお話がありました。特に,薬剤の組み合わせの注意点,それぞれの時期での薬剤濃度の違いやその理由,薬剤散布の収穫前日数や回数など詳しい説明がありました。すだちでは,シャクトリムシやダニ,かいよう病などについて,症状と具体的な防除剤のお話がありました。



●第4回講義【午後の部】「ゆずの栽培について」（座学）
日時：令和4年9月21日(水)13：00～15：00
場所：佐那河内村役場　大会議室
講師：徳島市農業協同組合 南部営農経済センター　山本浩史さん
参加人数：8名
徳島農業支援センターから3名参加。
内容：ゆずの来歴や特徴から、管理方法、施肥、収穫・予措・貯蔵までの一連の流れなど詳しい説明がありました。ゆずの特徴として,柑橘類では最も耐寒性が強く,すだちによく発生するかいよう病には強いが,こはん症がよく発症するとのことでした。こはん症はウイルス由来と土壌由来の2種類あり,凹はウイルス由来,凸は土壌由来とのことで,土壌乾燥や他の柑橘(すだちなど)との混植で感染しやすいとのことでした。収穫は,長期・短期貯蔵とも5部着色くらいで収穫するのが良く,予措の後,貯蔵温度は5℃から3℃で管理するとのことでした。ゆずは,輸出も増えてきており,「木頭ゆず」「物部ゆず」はGI(地理的表示)を取得しているとのことでした。

●第5回講義【午前の部】「流通と市場について」（座学）
日時：令和4年10月18日(火)11：00～12：00
場所：佐那河内村役場　大会議室
講師：JA全農とくしま 園芸部 部長 二木 伸一さん
参加人数：9名
徳島農業支援センターから1名参加
内容：卸売市場の機能として,①集荷・分荷（各地から食材を集めて,販売先のニーズに合わせて食材を分ける。）,②価格形成（公正な売買取引により,適正に価格が決められる。),③代金決済(売買取引した物品の販売代金を速やかに決済する。),④情報受発信（取引結果や需要と供給に関わる情報を出荷者や販売先に伝達。）の４つの機能があり,現在は「せり」での取引よりも「相対取引」が主流になっているとのことでした。市場を通さない販売（直売やイーコマースなど）が増え,中央市場,地方市場とも減少傾向にあるとのことでした。また,ここ数年のコロナ禍においては,外食や中食が大きく減少し,内食が伸びていることから,ミールキットや冷凍食品・出前市場などが伸びているとのことでした。ウクライナ情勢等を受け,食料価格が上昇する中で,変化を予想しながら,これまでの業態や事業にとらわれず,消費者の新たな価値観の中で必要とされるサービスを生み出すことが重要であるとのことでした。

●第5回講義【午後の部】「鳥獣害の対策について」（座学・現地見学）
日時：令和4年10月18日(火)13：00～15：00
場所：佐那河内村役場　大会議室　及び　村内園地
講師：佐那河内村役場 企画政策課 上野 浩嗣さん
参加人数：10名
徳島農業支援センターから1名参加
内容：サル対策について,檻やモンキードッグ,テレメトリー調査についての説明がありました。シカ・イノシシの対策として,広域防護柵や電気柵の説明があり,電気柵では,動物によって効果のある高さの違いや,電気が正常に流れるための除草の大切さのお話がありました。捕獲した個体を処理する処理施設や遠隔監視カメラの導入,センサーネットワークを活用した対策などのお話がありました。座学の後,実際に電気柵を設置している園地を見学し,設置時の注意事項や動物の習性など,具体的な対策を聞くことができました。

●第6回講義【午前の部】「キウイフルーツの栽培について」（座学）
日時：令和4年11月2日(水)10：00～12：00
場所：佐那河内村役場　大会議室
講師：徳島県農業支援センター　徳島ブランド推進担当　岡島　さつき　さん
参加人数：9名
徳島農業支援センターから3名参加
内容：キウイフルーツの来歴から特徴・品種・結果習性など全体的なお話の後，落葉後の整枝剪定から摘蕾や受粉，防除など作業順に沿って詳しいお話がありました。キウイの特徴として，雌雄異株で花粉を採取し，受粉が必要なこと，根は浅くて地下部は３倍近くの地上部を支えていること，湿害や乾燥に弱いため，排水対策や潅水が必要なことなどのお話がありました。また，食べるためには追熟が必要で，リンゴと一緒にポリ袋に入れ，頭とお尻の部分を持って軽く押すとへこむくらい少し弾力があるものが食べごろであるとのことでした。

●第6回講義【午後の部】「キウイの収穫・貯蔵」（実習）
日時：令和4年11月2日(水)13：00～15：00
場所：大西さん園地及び果樹選果場
講師：市原　善文さん
参加人数：9名
徳島農業支援センターから3名参加
内容：最初に,講師の市原さんよりキウイフルーツ部会の収穫・貯蔵打合せ会の資料を基に,キウイ園地の巡回で収量予想をすること,出荷規格や販売実績の推移のお話がありました。佐那河内村では,ヘイワードを主に生産しており,175g以上の実を達磨キウイとしてブランド化しているとのことでした。お話の後,実際にキウイを収穫し,コンテナで40箱収穫することができました。その後,JA徳島市南部営農経済センター果樹選果場に場所を移し,日開課長から貯蔵や選果機の説明を受けました。

●第7回講義「みかんの栽培について」(座学)
日時：令和5年1月12日(木)10：00～12：00
場所：佐那河内村役場　大会議室
講師：西岡　優　さん
参加人数：9名
徳島農業支援センターから2名参加
内容：果実が多くなると葉と根が少なくなり,果実が少ないと葉と根が増える。葉と果実と根のバランスが大切であること,品種の特性(早生,普通,晩成など)を考慮し,経営戦略をたてること,鳥獣害対策を徹底することなど全体的なお話と,施肥,防除,摘果,剪定,貯蔵など作業ごとのお話がありました。栽培技術の一つとして,果糖甘味アミノ酸(プロリンなど)は乾燥で増加するため,夏場に水分ストレスをかけることが旨いみかんを作るとのことでした。また,園地や作物を観察し,作物の状態や行動などを記録すること,工夫し,決断し行動することが農家として大切なことであるとのことでした。

●第7回講義「キウイの剪定」（実習）
日時：令和5年1月19日(木)10：00～12：00
場所：大西さん園地
講師：市原　善文　さん
参加人数：6名
徳島農業支援センターから5名参加
内容：キウイの収穫を行った大西さんの園地をお借りして,キウイの剪定を行いました。最初に講師の市原さんから剪定の意味や剪定の方法,棚付けの方法のお話を聞いた後,それぞれ剪定を行いました。キウイの剪定は,昨年結実した弱い枝などを間引き剪定し,強い枝を残して切り返し剪定を行い,棚付けをするのが基本であり,棚に空白ができないように配置することが大切であるとのことでした。

●第8回講義【午前の部】「土づくりについて」（実習）
日時：令和5年2月16日(木)10：00～12：00
場所：大仲さん園地
講師：徳島農業支援センター 徳島支援第一担当 木村 拓登さん
参加人数：9名
徳島農業支援センターから3名参加
内容：大仲さんの園地をお借りし,土づくりの実習を行いました。苗木植え付け前の土づくりは,植え付け後にできない苗木直下,周辺の土壌改善が目的であり,土づくりと植え付けの間に1ヶ月ほど時間を置くことで堆肥や土壌改良資材が馴染むとのことでした。縦横80～100cm,深さ50～60cmの穴を掘り,掘った土に苦土石灰・堆肥等を混ぜ,埋め戻し,押さえつけずに小山をつくる局所施用が一般的な方法ですが,大仲さんの園地では,園地全体に苦土石灰・牛糞堆肥を敷き均し,管理機で耕耘し定植箇所へ土寄せする全層施用の方法で実習を行いました。

●第8回講義【午後の部】「すだちの剪定」（実習）
日時：令和5年2月16日(木)13：00～15：30
場所：山神果樹薬草園園地
講師：徳島市農業協同組合 南部営農経済センター 長谷部 秀明　さん
参加人数：9名
徳島農業支援センターから3名参加
内容：まずはノコギリを使って間引きを行った後,はさみで整えること,手の届く場所からではなく,上から剪定を行うこと,上から三角,枝も三角に枝を整えることなど剪定の基本について,実際に1本の木を剪定しながらお話をしていただきました。また,枝を使って,はさみの入れ方や間引き剪定と切り返し剪定の違い,切る場所による枝の出方の違いを聞くことができました。先生に指導を受けながら,1本の木を2～3名で剪定を行いました。

●第9回講義「みかんの剪定」（実習）
日時：令和5年3月1日（水）13：00～16：00
場所：かんきつテラス徳島（勝浦町）
講師：徳島県立農林水産総合技術センター　農業大学校　安宅　雅和さん
参加人数：7名
徳島農業支援センターから3名ご参加いただきました。
内容：初めに圃場で剪定の基本的なお話を聞きました。剪定の目的は①管理作業がしやすい樹形に整えるとともに，果実を支える強力な骨組みをつくること。②樹体全体に日射が十分ゆきわたるように枝を配置し，高品質な果実をつくること。③隔年結果を防止し，毎年安定した収量をあげながら樹齢を長く維持すること。④病害虫に侵されている枝を取り除いて，病害虫の発生を少なくすること。であり，結果習性を知ったうえで主枝，第一亜主枝，第二亜主枝の順に剪定することなど剪定について詳しく聞くことができました。見本として実際に1本の木の主枝の一つを剪定していただき，残りの主枝を先生の指導の下，受講生が剪定しました。その後，受講生全員で実際にみかんの剪定を行いました。

●第10回講義【午前の部】「常緑果樹の苗木植え付けについて」（現地での講義）
日時：令和5年3月22日(水)11:00～12:00
場所：稲木さん園地
講師：徳島県立農林水産総合技術センター　高度技術支援課　板東　康成さん
参加人数：9名
徳島農業支援センターから3名ご参加いただきました。
内容：稲木さんの園地をお借りし,苗木の植え付けの講義を行いました。前日からの雨の影響で,植え付け自体はできませんでしたが,園地でお話を聞きました。講師の坂東さんに加え,大仲さんも現場でお話をしていただきました。まずは講師の坂東さんより,苗木植え付けの注意として,植え付け時期は3月下旬から4月上旬の発芽前までに行うこと,苗木の根は植えるまで乾かないようにすること,根は傷んでいる部位以外はできるだけ切らず,細根はそのままにしておくこと,接ぎ木部が地上に5センチ程度は出るように土をかぶせることなどのお話がありました。その後,大仲さんより土の盛り方や乾燥・雑草防止のためのマルチ被覆などのお話がありました。実際に農家が行っている作業を聞くことができ,今後の苗木植え付けの参考になりました。

●第10回講義【午後の部】「接ぎ木について」（実習）
日時：令和5年3月22日(水)13:00～15:00
場所：佐那河内村役場東側
講師：西岡　優さん
参加人数：9名
徳島農業支援センターから2名及び午前講師の坂東さんにもご参加いただきました。
内容：接ぎ木は樹液が動き出す4月中旬以降が良い時期であり,接ぎ方は,はぎ接ぎ,芽接ぎ,腹接ぎ,切り接ぎがあることなどの説明がありました。樹液が動き出してからは,簡単に皮を剝くことができ,穂木と台木の形成層同士を接ぐことで確実に接ぎ木が成功するとのことでした。接いだ後は接ぎ木テープなどで被覆し,芽が出だしてからは少し穴を開けて芽の伸長を助けること,長く伸長したら継いだ部分から剥離しないように支柱で固定し,強風への備えることなどのお話がありました。接ぎ木テープは芽が出だしてから穴を開ける必要のないテープもあるとのことでした。実際に腹接ぎの仕方を見せていただいた後,枝を台木に見立てて,穂木の切り出しから接ぎ木テープでの被覆までの作業を行いました。

●令和４年度　佐那河内果樹アグリスクール　修了式
日時：令和5年3月22日(水)15:00～
場所：佐那河内村役場　大会議室
修了者：8名

令和4年度　佐那河内果樹アグリスクールの修了式を行いました。今年度は10回の講義を行い,8名に修了証書を授与しました。校長である岩城村長および佐那河内農業振興協議会 加藤会長よりご挨拶をいただきました。